

授業科目	*基礎看護学実習Ⅱ					実務家教員担当科目	○				
単位	2.	履修	必修	開講年次	2	開講時期	前期				
担当教員	梶原 江美										
授業概要	入院患者受け持つことを通して、生活者としての理解と対象者がもつ看護問題の解決に向けた看護過程の展開に必要な基本的な能力を養う。また、対象者との関わりや看護実践を通して、看護専門職者としての基本的態度の修得を目指す。										
授業形態	実習					授業方法	実習オリエンテーション、臨地実習、学内実習、カンファレンス				
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<p>臨地実習指導者や教員の助言を受けて、以下の実習目標のもと、各行動目標の達成を目指して実施する。詳細は、2024年度看護学実習要綱に記載している。</p> <p>[実習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当患者と援助的人間関係を築くことができる。 2. 担当患者を生活者として理解し、患者の持つ看護問題の解決に向けて検討することができる。 3. 担当患者の看護問題解決に向けた看護の実施および評価ができる。 4. 看護者に求められる態度・姿勢とは何かについて考え、行動することができる。 5. 自己の看護観を育むことができる。 										
理想的レベル	<p>臨地実習指導者や教員の助言を受けて、以下の実習目標のもと、各行動目標の達成を目指して実施する。詳細は、2024年度看護学実習要綱に記載している。</p> <p>理想的レベルとしては、実習目標を達成するにあたって自身の思考力や実践力を洗練化するために主体的に行う姿勢があることを期待する。</p> <p>[実習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 担当患者と援助的人間関係を築くことができる。 2. 担当患者を生活者として理解し、患者の持つ看護問題の解決に向けて検討することができる。 3. 担当患者の看護問題解決に向けた看護の実施および評価ができる。 4. 看護者に求められる態度・姿勢とは何かについて考え、行動することができる。 5. 自己の看護観を育むことができる。 										
評価方法・評価割合											
評価方法		評価割合（数値）					備考				
試験											
小テスト											
レポート		39%									
発表（口頭、プレゼンテーション）		07%									
レポート外の提出物											
その他		54%									
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	-	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	NU11212J
										グ	

学習課題（予習・復習）	1回の学習目安 （時間）
実習に必要な知識や技術について知識を活用する。	0
授業計画	
第1回	<p>基礎看護学実習Ⅱ（2単位）の詳細については「2024年度 看護学実習要項」を参照。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習単位・時間数 : 2単位 90時間 2. 実習期間：臨地実習は、下記の日程で3病院に分かれて実施・展開する。 2024年9月2日（月）～9月13日（金） ※土・日を除く10日間 3. 実習時間：臨地実習時間 8：30～15：30, 学内実習時間 9：00～16：00 4. 実習概要：各実習病院に分かれて、グループごとに病棟での実習を行う。実習は患者1名を2名の学生で受け持ち、担当患者の看護問題解決に向けた看護過程展開の基礎を学ぶ。
テキスト	詳細は、実習オリエンテーションの際に看護学実習要綱に基づき説明を行う。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	適宜紹介する
課題に対するフィードバックの方法	<p>実習中のカンファレンスや実習最終日の面接などによりフィードバックを行う。 また、適宜、実習中にグループまたは個人にフィードバックを行う。</p>
学生へのメッセージ・コメント	<p>1年生から学んでいる知識や技術を統合して、担当患者の看護について系統的に根拠に基づいて考えていきます。</p> <p>看護過程は難しいとはよく聞く学生からの言葉ですが、難しい中に充実感や看護の奥深さに気づく機会でもあります。</p> <p>また、モデルとなる看護師に出会う機会でもあります。</p> <p>ぜひ、基礎看護学実習Ⅰからの自身の成長も味わえるよう、健康管理や感染予防に留意しながらグループで協力して主体的な実習としましょう。</p>